

標 題 捕まえて見てみよう！田んぼに生息する生き物たち

(ダイジェスト)

邑南町立石見東小学校ではふるさと教育の一環として、以前より田んぼの生き物調査を毎年2年生が行っています。今回の調査では児童10名がオタマジャクシやカエルなどを捕獲し、種の見分け方や田んぼとの関わりについて学びました。

邑南町立石見東小学校ではふるさと教育の一環として、以前より2年生は田んぼの生き物調査を、5年生は稲作体験を毎年行っています。農業部では調査や体験の事前学習として稲作での作業や田んぼに生息する生き物についての授業を毎年実施しています。

今年は6月8日に事前学習を行い、10名の児童たちは代かき、田植えといった稲作の作業についてと田んぼに生息する生き物及びその関わりについて学習しました。

そして、6月10日に生き物調査の第1回目を農事組合法人北の郷ファームさんの協力のもと、法人のほ場にて実施しました。これまで田んぼの生き物をほとんど捕まえたことのない児童もあり、最初はなかなか捕まえられない様子でしたが、法人の方から捕まえ方を教わったり、捕まえるのを手助けしてもらったりして徐々に捕まえられるようになりました。途中からは「オタマジャクシを一気に5匹捕まえた！」「あそこにいる大きいカエルを捕まえよう！」という声も聞かれ、積極的に生き物を捕まえている様子でした。

一通り生き物を捕まえた後には、農業部からオタマジャクシやカエルの種類が見分けられる資料を配り、それを用いてオタマジャクシやカエルを分類してみることに挑戦しました。

こうしたふるさと教育を通して、地元の子供たちと農業者が関わることは農業を身近に感じてもらい、関心を持つきっかけになると考えられます。今回生き物調査を実施した児童の中から将来の農業における担い手が誕生することを願っています。



生き物を捕まえる児童たち



捕まえた生き物の分類に挑戦する児童たち